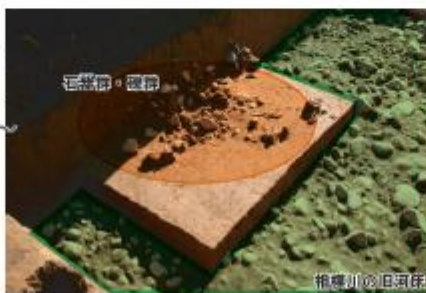


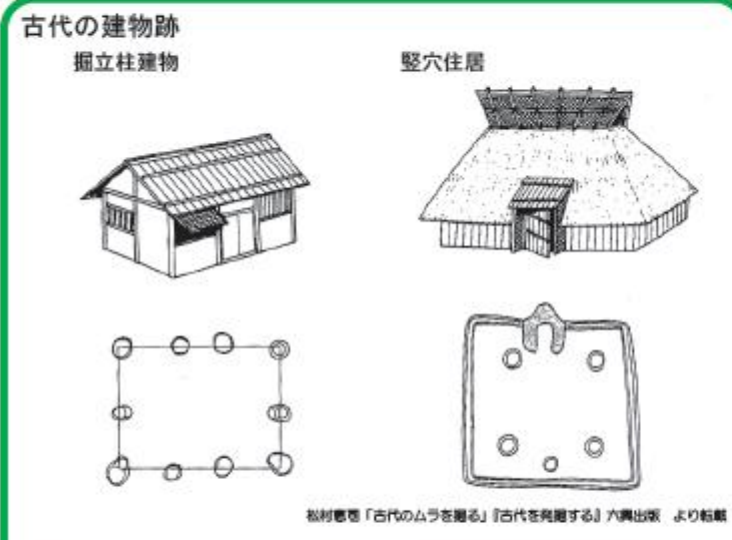


今回の調査では、第1次調査に発見されていた平安時代の集落の広がり的一部分が確認されています。

このほかにも奈良時代の住居が発見されるなど、田名塩田から本遺跡にかけて展開する、古墳時代から始まり奈良・平安時代に大きく広がった集落群の一部としての様相がうかがえます。



関東の古代集落で発見される主な建物遺構は、半地下式の竪穴住居と平地式である掘立柱建物の2種類です。



竪穴住居に付属する調理施設であるかまどは、関東においては古墳時代中頃から造られ始めました。

発掘されるかまどの大半は、住居を放棄する際に片付けられたものか、廃絶していく課程でつぶれていったものです。

発掘調査では、発見される遺構がいつ頃・どのような性格を持つものか・どのように埋まっていったか、などを常に考えながら掘っていきますが、かまども同様に、どのように廃絶していったのかを知るため、遺物の出土状況や土層を詳細に観察し、記録をとっていきます。



発掘調査の目的

現在、国土交通省横浜国道事務所等により神奈川県中央部を南北に走る「さがみ縦貫道路」の建設が進められていますが、本調査もさがみ縦貫道路（仮称）相模原南1Cの建設に伴い、事前に行われている埋蔵文化財発掘調査です。

遺跡の立地と周辺環境

遺跡は相模原市当麻に所在し、JR相模線「原当麻」駅から南方に1.2kmに位置します。地形は相模川左岸の河成段丘上（陽原面）、標高56mに立地しています。周辺には現在の夢の丘小学校にあたる当麻亀ノ甲・西原遺跡や谷原古墳群、東原古墳群など古墳群、国指定史跡となった田名向原遺跡など数多くの遺跡が存在します。



今回の発掘調査成果

今回の調査区に挟まれた国道129号線は、その建設時の昭和48年に当麻遺跡第1地点として、神奈川県教育委員会により調査が行われており（以下第1次調査とする）、奈良・平安時代の集落跡が発見されました。今回の調査区は、この第1次調査の調査区を挟む4ヶ所となります。

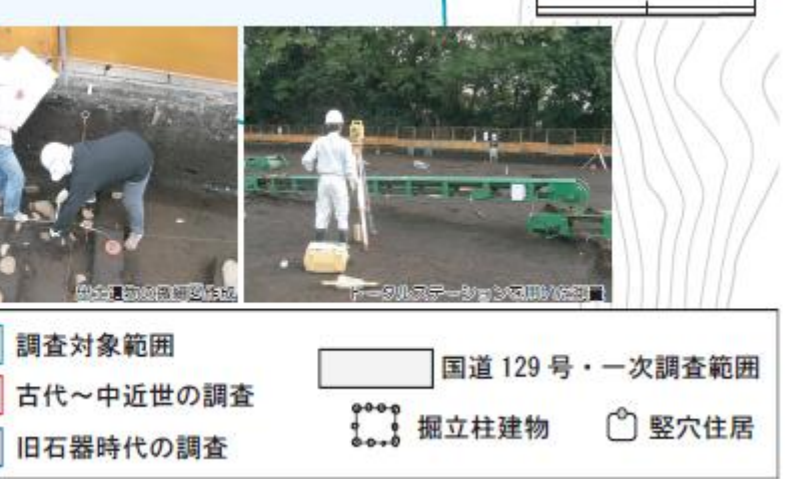
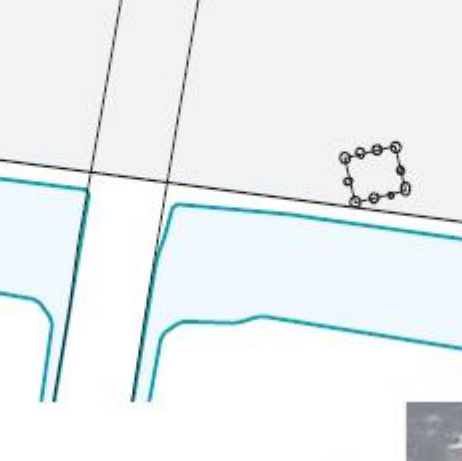
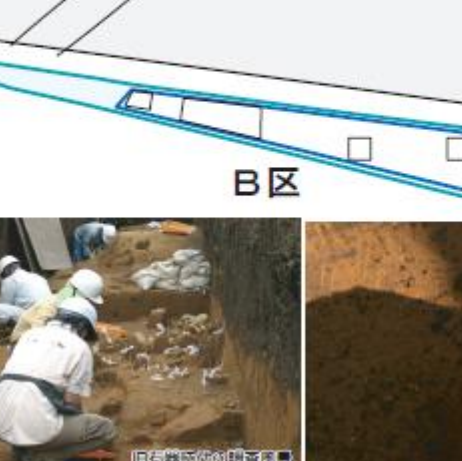
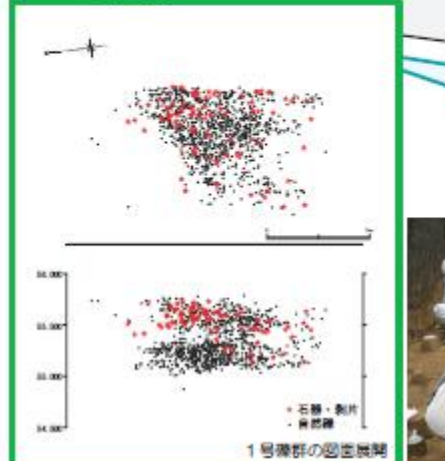
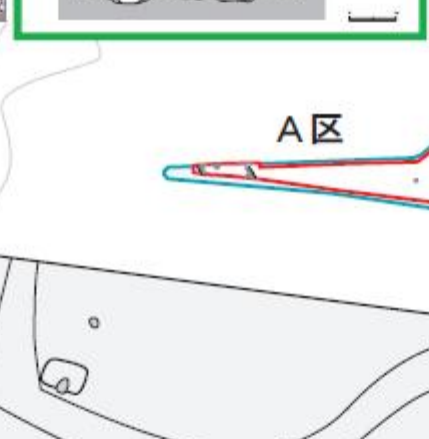
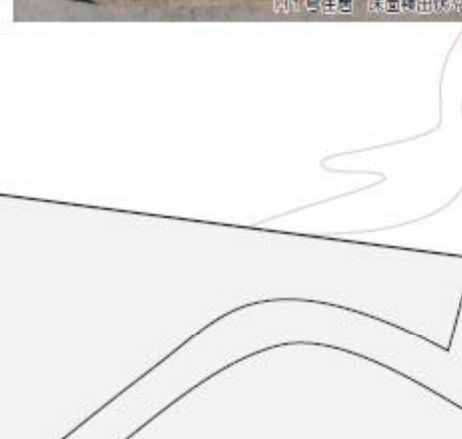
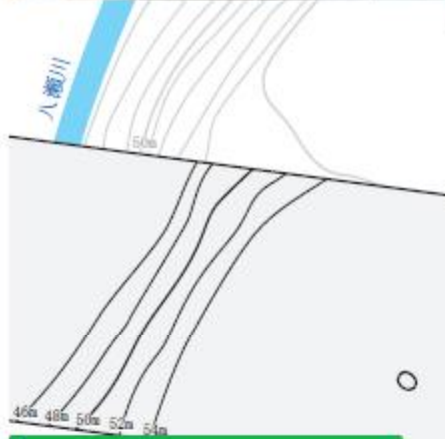
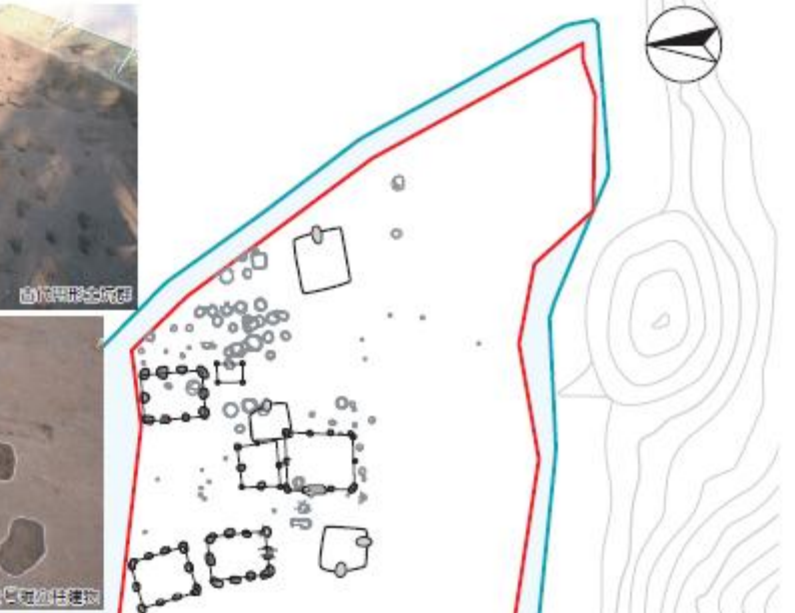
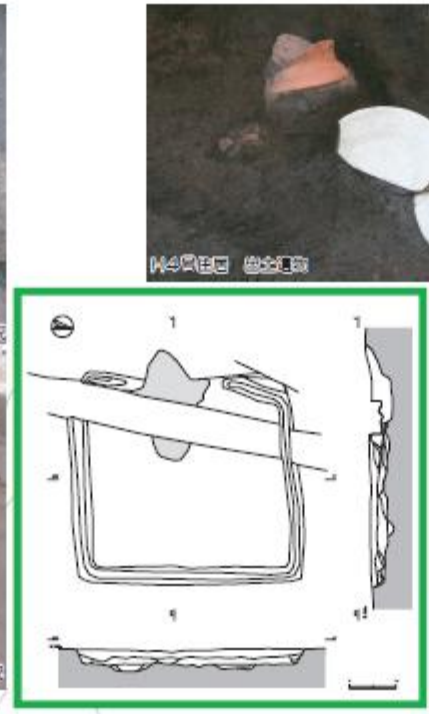
これまでの調査成果でも、第1次調査の成果に類する奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかり、その他にも、同時期の円形土坑群や溝なども見つかりました。縄文時代の調査では縄文時代中～後期の土器が発見されていますが、現在までに竪穴住居跡などの集落跡は見つかっていません。

またB区とした調査区においては、関東ローム層（赤土）のL1H層と言われる層位から旧石器時代の（今から約13,000～15,000）年程前の槍先形尖頭器を主体とする石器群と礫群が発見されています。

編集発行：(財)かながわ考古学財団
〒232-0033
横浜市南区中村町3-191-1
TEL 045-252-8689

こうした成果とともに、発掘調査の方法や調査の状況等をご覧いただき、少しでも埋蔵文化財発掘調査に関する理解を深めて頂ければ幸いです。

相模原市No.185 遺跡



- 調査対象範囲
- 古代~中世の調査
- 旧石器時代の調査
- 国道129号・一次調査範囲
- 掘立柱建物
- 竪穴住居